

鳴海周平の

# ぶらり旅

茨城県・筑波山編



筑波山の女体山頂から眺めた男体山。整ったピラミッドのような山容は、まるで宇宙との情報をやりとりするアンテナのようです。



樹齢800年といわれる紫峰杉。幹周り7メートル、高さ40メートルの巨木です。



登山道の各所から素晴らしい眺望が楽しめます。

その美しさから「西の富士、東の筑波」と称されてきた筑波山。朝夕で表情が変わるその様子から「紫峰」とも呼ばれ、「日本百名山」にも数えられる名峰です。

「つくばでのお話会、今度は筑波山の麓でどうでしょう？せつかくだから、ご希望の皆さんと『筑波山に登るツアー』にしたら楽しそう!!」

昨年、つくば市で「鳴海周平のお話会」を主催してくださった柚木千文さんからの提案で、今回の「筑波山登山&お話会」が決まったのは昨年12月。以来、千文さんが現地での様々な調整を行いながら準備を進めてくれたおかげで、約30名の皆さんと一緒に、筑波山の素晴らしいエネルギーを満喫することができました。

「地元からの参加ですが、筑波山ってこんなに素敵なお話会だったんですね。とても優しい『氣』をあちらこちらで感じる事ができました」



セキレイがその尾の動きから「男女の道(性交)」を教えたと言われるセキレイ岩。陰陽統合の象徴でもあります。



その昔、永井兵助がこの場所で「ガマの油売り口上」を考え出したことから「ガマ石」と呼ばれます。元来名は「雄龍岩」。傍には「雌龍岩」もあり、陰陽を象っています。



訪れた4月下旬はちょうど春の花々が咲き始めた頃。とても爽やかな気候でした。

「本当に、優しく温かいエネルギーのお山ですね。今度は家族と一緒に来たいと思います」

「※磐座いわくらだらけで驚きました。まるで、山全体がパワースポットですね」

皆さんからのお声のとおり、山そのものが御神体である筑波山は、とても優しいエネルギーに満ちているところ。男体山と女体山から成っていることで、男女(陰陽)統合のひな形とも言われています。

セキレイ岩やガマ石(雄龍岩と雌龍岩)に代表される磐座群など「陰陽統合」の象徴をあちらこちらに見出すことができる筑波山。これからの時代の方向性を、再確認させていただいた素晴らしいツアーとなりました。

主催していただいた柚木千文さん、「一緒にいただきました皆さま、どうもありがとうございました。」

※磐座 神が降りてくる依り代や、御神体そのものとした巨石などのこと。